

きらり通信

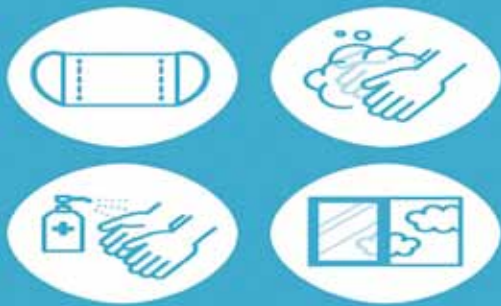
Vol.5

神奈川県立子ども自立生活支援センター
 平塚市片岡991-1 TEL.0463-56-0303
<http://www.pref.kanagawa.jp/div/1329/>
 編集 広報委員会 印刷 (株)あしがら印刷

～新型コロナとともに～

子ども自立生活支援センター 支援部長 岩崎 美一

対策実施中



今年4月に支援部長として着任しました岩崎と申します。前職場は平塚児童相談所で、主として児童虐待に対応する子ども支援課長を2年間務めさせていただきました。児童相談所では、同じ平塚市内にあり乳児院、障害児入所施設、児童心理治療施設を併設している「きらり」と業務上の繋がりがあり、緊急な子ども（乳児）の一時保護委託や子どもの成長・発達において必要な支援を提供している「きらり」内の各施設への入所措置等において大変お世話になっておりました。

外から見た「きらり」の印象は、3つの種別の違う施設が同じ敷地内にあり、子どもも職員も多く、これを一体で運営することは「さぞかし大変だろうな…」と漠然と他人事のように思っておりました。それが…、思いも寄らずに、この4月の人事異動で支援部長として着任することとなった次第です。

現在、令和2年5月26日。昨日、安倍首相が「新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を解除する」と発表した翌日になります。4月1日に着任した当時は、まだ緊急事態宣言は発令されてはいませんが、すでに他県の児童福祉施設においてクラスターが発生し、大混乱に陥っているとの情報もあり、当センターでも厳戒態勢の中での着任となりました。

新規採用職員、転任職員が施設全体で職員、子どもの前で着任挨拶をする機会はなく、子どもが生活するフロアへの出入りは基本的に職員自身が所属するフロアのみ限定されている他、保護者の面会遮断、関係

機関職員の施設内への出入り制限等の対応は今日もまだ続いています。

現状では国内の感染拡大に一定の歯止めはかかったものの、終息させるための抜本的な対策はなく、感染拡大の第二波、第三波が来る確率が高いと予想される中で、新型コロナウイルスと共に生きる「新しい生活様式」が国から提言されました。

「新しい生活様式」では、人との距離は手と手を伸ばして触れ合わない距離で。食事の際は横並びで。おしゃべりは控えて料理に集中する…等々、人と人との関係において「近づかない、向き合わない、話さない」ことが求められています。

当然、感染拡大が終息して欲しい気持ちは誰しもが持っていますし、国の方針は科学的、医学的判断によるものであり「新しい生活様式」に示されているような暮らしが求められていることを理解し、日常ではこれを守るよう心がけて生活しなければならないと思います。

ただし我々、施設職員からすると、新型コロナウイルスが作り出した人と人との距離感を施設内の子ども同士、子どもと職員の関係において受け入れるわけにはいきません。「近づかない、向き合わない、話さない」ことを施設という日々共に暮らす集団の中で適用することは不可能であり、ましてや人と人との関わりの中で成長する子どもを養育する環境において適用することはできません。

距離が近すぎて取っ組み合いの喧嘩になることや、おしゃべりに夢中で食事に集中できず料理を食べ散らかすような場面を通じて、子ども同士、職員と子どもが関わり合う機会が子どもの成長過程においては絶対に必要だからです。そうした関わりを続けていくために「きらり」の子どもと職員（分校の先生方も含めて）は、施設内にウイルスを持ち込まぬよう今も一丸となって踏ん張っています。

この機関紙が発行される頃に、世の中の情勢がどうなっているか、平穏な日々が再生していることを願ってやみません。まだしばらくは、大変な日常が続くことと思います。引き続き当センターへのご理解、ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

手紙

所長 小島 厚



きらりで生活している子どもたちは、日々いろいろな表情を見せてくれます。保育士と散歩する幼児さんは、私を見るとニコニコしながら両手をあげて抱っこを求めに。小学校4年生の女の子は、所長室に来て「水をあげてもいい？ わたし花が好きなんだ」と、観葉植物に語り掛けながらじょうろで水を。「所長、私注意されてばかり。嫌になっちゃう」と日ごろの不満を訴えに来る子どももいます。

そのような中、毎月所長室にいろいろな話をしに来てくれる小学校5年生の男の子のAくんがいます。3月のある日、Aくんが所長室に自ら描いた絵を持ってきてくれました。Aくん曰く「この絵は所長さんとの思い出を描いた絵だよ」と。裏を見ると、Aくんと私が虹を見ている物語が書かれていました。その横には「こじまさんへ いつもおはなしをしてくれてありがとう。また4がつにあう（おう）ね もしいなかった（ら）ぼくがかいたえでわすれないでね」の文字が。私はびっくりして、どうして？ と尋ねると、「だっていなくなっちゃうかもしれないでしょ」と。「大丈夫。来年度もきっといるから」と返しましたが、転勤も当然想定される自分の立場を思うと、Aくんの言葉に目頭が熱くなってしまいました。

その1か月後、私は転勤しなかったことをAくんにきちんと報告しようと思い、所長室でお話することにしました。ところが、予想もしなかった悲しみがAくんを襲うことになりました。それは、Aくんの「誰が転勤したの？」の問いかけに、子ども第三課（児童心理治療施設）の子どもたちが通う、きらりの中に併設されている分校の先生の転勤を伝えた時でした。Aくんは子ども第二課（障害児入所施設）に所属しているので、そのことが直接伝わっていなかったため、転勤を知ったAくんの表情は途端に曇りました。実は、その分校の先生は、Aくんが通っている学校で数年前に担任をしていて、その後きらりの分校に着任した、という経過がありました。Aくんは「先生はもう僕のことなんか忘れてるんだ」と言うので、「そんなことないよ」と返しつつも、悲しみの表情は変わりませんでした。

後日、私はAくんの手紙を書いてみることを提

案しました。Aくんは承諾しつつも、「どうやって届けるの？ きっと読んでくれないよ」と。私は分校の教務主任にお願いし、先生のもとに手紙を届けてもらうこととしました。

Aくんは所長室で言葉を慎重に選びながら、丁寧に手紙を書きました。思いが詰まった文字は便箋からあふれ出していました。手紙を教務主任に託した時に「返事くれるかなあ」と語るAくんに、教務主任から「きっと返事書いてくれるよ」と言われ、少し笑顔が戻った気がしました。

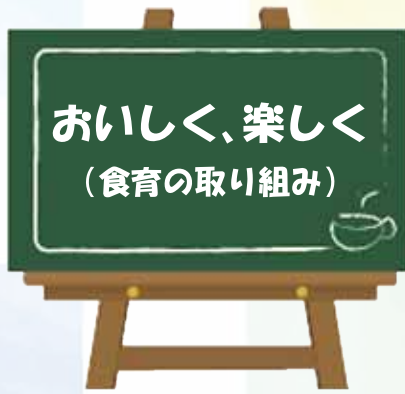
それから数週間したある日、教務主任から返事が届いたとの知らせがありました。私は早速Aくんに伝えたく、所長室に来てもらいました。Aくんは手紙を受け取って、所長室で私にも読み聞かせてくれました。「またいつか一緒にサッカーしよう」の返事に満足したAくんの表情を決して忘れることはありません。



こうした施設に入所してくる子どもたちの中には、悲しく辛い別れを繰り返し体験してきた子どもたちが少なくありません。このため、別れに対する感情は人一倍敏感になっているのだと思います。きらりは県立施設であるがゆえに職員の異動も頻繁にあるため、私たちはより一層子どもたちの気持ちに寄り添いながら、丁寧に向きあっていく必要があると感じます。ちょっとしたお互いの思いやりが双方の心を満たし、子どもたちを健やかな成長に導いていってくれるのだと思います。



(A君の作品)

『ごはんがおいしいと人は1年で1000回以上幸せになれる。』



 子どもたちは、きらりの生活の中で初めて経験することが多く  あります。食事に関しても初めて口にする果物や野菜たっぷりのメニュー、手をかけた料理を食べることもそのひとつです。

料理については、作っている場面を見る機会のなかった子どもが多く、フロアでの調理実習は貴重な経験となっています。子どもたちの参加意欲や希望に沿ったメニューや方法等を、担当者が毎回企画から知恵を絞っています。

子ども第一課 みらい



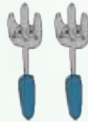
毎月1回の手作りおやつ

一人ひとり椅子に座り、お話を聞いてからクッキングスタート。ホットケーキの生地を混ぜたり、バナナを切ってイルカの形にしたり、そら豆を茹でたり、お米を炊いておにぎりを作ってお弁当にして食べたりと、毎回違ったメニューで楽しい時間を体験しています。

「おいしくな〜れ、おいしくな〜れ」とお話ししながら、普段は見ない食材を見つめ、怖がって触れなかったり、泣いたりする子もいますが、食べ物だと分かれば、最後はみんなでおいしくいただきます。みんなおやつ作りの時間が大好きです！



子ども第二課 ひばり



二課はフロアごとに特色がありました！

つばめフロア……フルーチェ作りをWさんと職員でしました。Wさんは、職員の手を引いて食べたいものを教えてくれました。

つぐみフロア……サンドイッチを包丁やスライサーを使って調理！切り口が食材の置き方によって変わるので、模様の出方にびっくりした子もいました。

かわせみフロア…作るメニューは和洋折衷でとてもバラエティー。「この調味料を足してみよう」などといった意見が出て独創的な料理ができます。



子ども第三課 ぎんが



あつあつピザ作り

三課では各フロアで月に1回、おやつ作りをしています。たこ焼き、焼きそば、クレープなど、子どもたちの意見も聞くなどしておやつを作っています。昨年度末は前支援部長がピザ窯を作り、ピザ作りをしました。ピザ窯で焼くピザを見たことがない子どももいて、好きな具材をのせたりと、出来たてアツアツのピザは大盛況でした。今年は新型コロナウイルスの影響もあり自粛生活が続きましたが、せめてセンター内の生活でも楽しくおいしい体験をしていきたいです。



きらりリレートーク

子ども第一課 濱崎 美和

2020年は“東京オリンピック開催！”という特別な1年になるはずだったのに…まさかの新型コロナウイルス流行で、4月に入ると緊急事態宣言が出されてしまいました。そこで休日は家に籠る日々をどう有意義に過ごせるか色々試してみました。

まずは断捨離。一つ思い切って捨てる则次々に手放すことができ凄くスッキリしたのですが、違物欲が湧いてきてネットでポチポチ。物は増え続けています。

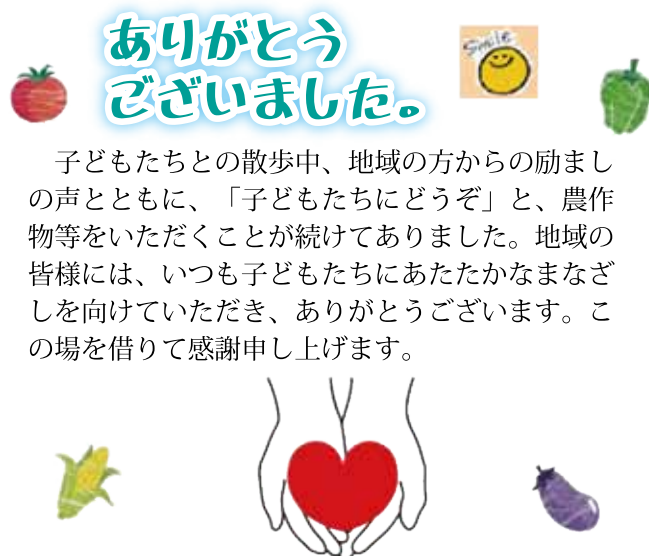
次は料理。自炊のモチベーションをあげるという名目でフライパンや鍋一式買い換えてみました。ただ、新しい道具に変えても上達せず、自分で作る料理に大分飽きているのが現実。さらに運動不足の解消にヨガマットも買ってみました。でも未だに開封さえしていません。あ、リモート飲み会もやってみました。最初は想像以上に楽しい！と思ったのですが、数回やったら飽きてきて、やっぱり直接会って話したいと思ってしまう。

そんなこんなで果たして有意義な自粛生活なのか謎ですが、私的には満足しています。

そんな毎日の中で唯一以前と変わらないものがあります。それは「みらい」の子どもたちとの日々です。“僕たち・私たちにはコロナなんて関係ないよ。いっぱい笑っていっぱい遊ぼ～”そんな勢いで甘えてくる子どもたちの笑顔に本当に救われています。この笑顔を守るためコロナに負けずに頑張ろう!! そう思わせてくれます。みんなありがとうね。

きらりとスマッシュ!! (卓球部)

毎年春頃から6月の卓球大会に向けて練習に取り組んでいます。昨年度の大会ではメダルが取れる一歩手前まで勝ち進むことができた子どももいました。今年も新型コロナウイルスの影響で大会が中止となってしまいましたが、7月に所内で開催したきらり杯に向けて日々練習に取り組ましました。よりたくさんの球が打てるよう球出し練習を取り入れたり、試合を組んで練習の成果を確認したりしながら取り組みました。きらり杯は、小学生、中学生が分かれてトーナメント戦でした。勝って喜んだ子ども、負けて悔しかった子どももいて白熱した戦いを繰り広げていました。(子ども第三課 大川)



子どもたちとの散歩中、地域の方からの励まし声とともに、「子どもたちにどうぞ」と、農作物等をいただくことが続けてありました。地域の皆様には、いつも子どもたちにあたたかなまなざしを向けていただき、ありがとうございます。この場を借りて感謝申し上げます。

ボランティア募集



行事等のお手伝いや、学習補助、衣類の補修等のボランティア活動をしていただける方を募集しています。特に地域の学校へ通っている子どもたちの通学に付き添っていただける方を探しております。資格や経験は問いません。ご興味のある方はお気軽に下記連絡先までご連絡ください。

短期入所サービス

当センターでは年齢が18歳までの知的障害のある方を対象に、短期入所サービスを提供しています。ご利用を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。

※新型コロナウイルスの感染状況によってはサービスを一時停止する場合がありますので、御理解を頂きます様お願いします。

施設開放

地域におけるコミュニティ作りや文化活動に貢献できるよう、当センターの体育館など貸し出しています。ご利用の手続き、日程の調整等のため、希望される方は、下記連絡先まで、お問い合わせください。

※現在は新型コロナウイルス感染症防止のため見合わせています。再開の際にはホームページでお知らせします。

研修案内

子どもの発達や、発達障害、愛着の問題など、「きらり」が支援する子どもに関するテーマについて、公開研修を企画開催しています。最新情報や内容・日程については、当センターホームページ内「子ども自立生活支援センター公開専門研修計画」を、ご参照ください。

※現在は新型コロナウイルス感染症防止のため見合わせています。再開の際にはホームページでお知らせします。

ご寄付やボランティアのご協力、ありがとうございます。子どもたちもとても喜んでます!



自立支援課 0463-56-0314 (平日8:30~17:15) または、ホームページの「お問い合わせフォーム」よりお問い合わせください。